

何のために！

……ぼくは九才業しない……

序

たとえば君が学外訂義に出席すれば、学外訂義を拒否する学生にとつてどのような意味をもつだろうか？

君の一言一動が（意味をもつこと、肯定的にしろ否定的にしろ君にかかわる全ての人にとつて、利害関係となつて表出してくること、このことをはつきりと確認してもらいたい。

この社会に生きてゐる全ての人は直接的にしろ間接的にしろ相互に關係づけられており、しかもそれはたえず變動していること、このことは事実であつて変えようがないのだ。

こう認識した上で、君が慎重に行動されることを、あるいは行動されないことを望みます。

封鎖行為は教室にかかわる全ての人へ学生、教官、そして権力のきわめて直接的、即自的な利害を前面に押し出す。

封鎖前の訂義を受けたと思う学生はその訂義を受ける自由を奪われることになり、教官は訂義するといふビジネスを拒否される。

学生が成績評価を伴つた単位をちようだいするために訂義に出席することは、卒業・就職という利害に結びつく。

「学向研究」という基本的権利を奪われている（学長パンフ）といふ認識がどんな研究をしようとする人の自由であるといふた。まあ、ただは生きている以上、教官にとつても封鎖は切実な問題にちがいない。

のか？ 封鎖しないより封鎖した方がよいのだという価値判断を明らかにし、それに賛意を得ること、封鎖派としての行動に立ち上がりさせること、これがこのレジューメの目的である。

1

大学における学問・研究の自由が、教官のみならず、学生にとつても、特権的自由である事実に対する異議申立て

試験は教えられ、また憶えている知識の理解度を測るひとつの手段でしかないのに、試験にいい点をとることが知識を理解することと同義になり、このことが無媒介的によいことにされるために、「いい点をとることが人間の価値を測ること」にまで発展してしまふと今度は逆にいい点をとるために知識をつめこむことを勉強と同義にしてしまふ。

何のために勉強するのか、はここでは永久に問われない。こういった勉強の再生産をわれわれは小学校からくりかえしてきたはずだ。それが現在の教育である。へ教育を受けることはバカになることだ！

高校に入るために勉強し、大学に入るために勉強し、就職のために勉強し——われわれはこの競争によって特権的地位を獲得することができ

能力のある者のみが恩恵に与る体制に寄与することができ

競争原理はヒエラルヒーを形成し、序列を正当化する。

マルジョワはといえば、彼は、さまざまな分野における特権制度を固定し、人間を能力別に選りわけて、階層を作り上げるために、あらゆる努力をかたむける。

と合理化される」をばくは根底的に否定したい。なぜなら豊かになる権利は等しくあるべきだからである。

合否を認めることは、他人を認めないことを認めることである。合否の判定につながる競争に参加することは自分をおとしめることだ。

現在の体制下で学生であること、特権階級であること、に甘んじることによつてわれわれは抑圧者として「社会」に登場するのである。

大学卒として就職することは、高度に発達した管理社会における中間階級としてマルジョワ権力体制の管理支配の強化抑圧に手を貸すビジネスを忠実に執行する権力の道具となることを条件に、マルジョワの分け前の相対的に大きい部分をもらうという取引の調印をすることである。

マルジョワ自由主義の理念からすれば、学び、研究することは自由である。そして実際、このような研究をしてはならないとは一言も言われ

ない。だが、その自由を具体的に行使しようとする、つまり大学で学向研究しようとする、そこにはもう自由がない。

大学で学向研究することを、人は、ある特別な能力をそつた者の特殊な仕事であるかのように錯覚している。

だから試験をやるのは当然なことだと。実はこのことはある能力をそつていると回家によつて一方的に判定された者のみに与えられたつかのまの権利であるにすぎない。

自由とは具体的なものだ。物質的な諸条件を満たしているはずのものだ。

「憲法二十三条 学向の自由はこれを保障する」

これは空文である。禁止条項のないことが自由の実体ではない。

大学での学向研究の自由が全ての人のものとなるまで、教官も学生も特権階級であることをはつきりと確認しようではないか。そして、このことを鋭く自己否定しよう。

2

われわれの日常的営為が、マルジョワに貢献している

ことに対する異議申立て

1で述べた特权的自由は他人を排除した自由、の上に、大学における学内研究の自由の理念が定着している。

「何を研究しよう」と研究したい者の自由である」という自由が、しかし……

(A) 大学の、または教官の学問研究の自由はどのように歪んでいるか。

研究者の自由が真の意味で自由であるとは「何をどれだけ研究しよう」と研究者の思うがままになる」ということだ。が、「どれだけ」というときには、当然、金、が問題になるだろう。

研究に供する費用には自ずと限界があることを前提としても、現在、研究予算の配当が研究成果をメルワマールとしてなされていることに注目しなければならぬ。

つまり、研究が「社会還元」されないような性格をそとばさず、ど、その研究は見識されていく事実をはっきりと見定める必要がある。

× ×

いわゆる有名大学でない私学が何故実業大学であるかは察しがつくというものだ。へ私学の予算の一部は企業からの援助！

国立大学においても事情は変わらない。医・理・工系とりわけ応用科学の分野への積極的な「投資」に比べて、文系（経営学など）応用科学分野への支出は著しく少ないが、への「投資」はきわめて消極的である。

「どんな研究かわからないのに国民の税金を無責任にわたすわけにはいかない」（坂田文相）

「学内的には正しくともマルクス経済学ばかりじゃどうにもならない」（ハル製鉄副社長）

というのが、フルジョワの、フルジョワによる、フルジョワのための論理である。

× ×

中教審答申で「大学の目的」が執拗に述べられていることに注意しよう。

「新しい大学はかつての象牙の塔ではなく、社会的な機関としての性格をもつべきことを指摘した。それは個人と社会に対する要請に即応できる大学であり、社

会からの批判とその建設的な協力に道を開いた大学であり、公費の大幅な支援を受けるとともに、学内研究を通じて社会に奉仕する大学である」と中教審が何を言っているのかと言いつと、社会に奉仕しないような学内研究なんぞ大学でやる必要はない、そんなものは切り捨てて、産業界のどの分野に奉仕するかによって類別化した大学に再編すべきであると言っているのだ。へモデル大学理想を見よう！

次に

× ×

企業や国家の委託研究をはじめ、企業がある特定の研究や研究施設に金を出すことは他の研究者の研究を直接には阻害しないからかまわないではないか？

その委託研究の内容と研究者の研究内容が一致していれば、その研究の是、を他人が論ずる筋合いはないだろう？

× ×

という議論について考察しよう。ひとこと言えば、フルジョワが大学を利用したってかまわないだろう、フルジョワが研究成果を利用して生産し、人民収奪を行おうと何をしようと大学には関係ないだろう、ということだ。

× ×

このフルジョワの論理は、フロレタリヤが大学を利用したってかまわない、という結論を導き出す。さらに言えば、フロレタリヤが革命のために大学を利用したってかまわないという結論を導き出す。

× ×

しかし、フルジョワは学内研究の府、理性の府である大学を暴力学生の巣にするなどともないことだと一喝し、大学法を制定した。フルジョワは、大学がフルジョワの私有財産であることを宣告し、斗いの圧殺を加速させたのである。

× ×

実際、フロレタリヤは大学を利用しようにも利用するすがない。フロレタリヤの利益が大学で守られるようにすることとは、フルジョワの利益が大学で守られるような体制、枠を破壊することなのだ。

× ×

「産学協同」に反対することは、「大学を全ての研究者、研究を望む者に、したがって研究に、最も都合のいいように組織させよ！」という意味あいを含んでいる。具体的に言えば、全ての外的な制

約へとりわけ国家権力から自由に研究させよ！ということだ。これはフルジョワ的な権利にすぎない。が、研究における体制批判が自由にできないようでは、研究なんてないと同じだし、そういった価値からの自由をしめ殺すような「社会還元のため」の大学論は全的に排除しなければならぬ。

× ×

「学内・研究が奪われた」というとき、ぼくは、どんな学内・研究が奪われたか、をまず問題にしたい。個別的には反体制的な研究であるのかもしれない、平和のための学内であるのかもしれない、その研究であろうと、総体として、現在の学内研究の自由が以上のようなものであるとき、われわれは守るべき学内・研究の自由などない」とまず結論せざるをえないのである。

(B) 学生の学問研究の自由はどのように歪んでいるか。

× ×

学生が大学において学内研究する場合、それは主として訂義をとおして行われる。われわれが問題とするのは、現在の大学において学内研究することと、訂義を受けることが、果して等置できるのか、である。

× ×

まず、個々の訂義に關しては、次のように設問しよう。

「訂義は断片的な知識の押し売りではないのか」

それは、黄ばんだ万年ノートの音読を一訂とするような教官に対して発せられ、その科目の概論、つまり学説の解説、その学内（へ）の歴史の解説を訂義と称している教官に対して発せられ、さらに、たとえ自分のテーマと理論を真剣に講義する教官に対しても発せられる。

× ×

「あなたのは少年マガジンの連載マンガじゃないか。オレたちは訂義を聞きに来ているんじゃない」と。訂義する教官にとっても、受訂する学生にとっても、学内・研究たりうるような訂義は何か。

× ×

従来の訂義は、学生にとって、何も学内研究の自由の契機ではなかった。

次に、学生が特定の研究テーマをまつ場合、学生が訂義において教官と対等の研究者たるときは、一般的に知識の集積の差こそあれ、学生がこのような姿勢で臨むときである。

この場合、学生はその分野における方法論の一貫した学問体系を必要とするだろう。

カリキュラム編成権が教授会に占有されていることはこの意味から不都合なことだ。むしろ、一課目を担当する教官が一人であることにより、学生が不利益をこうむることだ。当然ありうる。

とくに、商大のように、経済学を学ぶ学生が多い大学においては、原論が近経の方法論でのみ訂正られ、西洋経済史の方法論が大学史に依っていることは、学生が学向する上で不都合なことこのうえない。

経済学が体系的に整理されてカリキュラムが組み立てられないことは、学生が研究する上で致命的である。

訂義が研究の糧とならずに、単なる知恵の集積に終ってしまいかねないから。

× ×

結局、主體的に学向しようとする学生は、現在の体制、すなわち学生がカリキュラム編成権、教官採択権（人事権）、予算処理権を伴う学問的生産諸手段から自由であること、によって主体性を剝奪されているのだ。

× ×

ではいったい学生はこうした状態に甘んじることによって、どのような性能がせられていのか、逆に言えば、大学は社会的にはどのような性能し、学生をどのようなにあつかっているのか？

それは——大学（工場）は学生（原料）を募集（入れ）し、入学試験を行い（セリ市にかけ）、勉強させ（製造加工過程）、学年末試験をし（動力装置にかけ）、卒業（製品完成）させ、卒業証書（学士号（商標））を付与する。

整備されたこの回路を通過する限り、いかに革命的な学友でも労働力商品として市場に売られるのである。同時に、性能のいい商品として、中卒、高卒の商品を抑圧する性能を果すのである。

3

1・2に述べたことが、大学の日常的秩序によって保障されていることに對する異議申立て

1・2をとおして大学という特

権工場の機能を考察してきた。そこには、学向研究という日常的営為をとおして国家意志が貫徹されている。マルジョワに奉仕する知的、人的、イデオロギー的生産こそが国家意志の具体的表現である。

さて、学生であることの自己否定を貫徹する、という目的意識性をもって今一度、大学の管理支配体制、（それはとりもなおさず労働力商品を作り出すためのしくみであるのだ）を明確にしてみよう。

× ×

9・8以来二週間にわたる大衆団交の過程で明確になった、1学問研究を推し進める上で、成績評価を伴った単位制度・卒業制度を論理的に導き出すことはできない、成績評価を伴った単位制度・卒業制度と学問研究とは位相の異なる問題である。という事実が、労働力再生産性能としての大学管理を曝き出す突破口となる。

当局の管理支配とは本質的には厚生補導ではない。コンベアに乗せられた学生を教育的見地からチェックすることである。

すなわち成績評価によって競争を煽り、単位認定によって可否を判定し、その集積によって卒業を認定する作業によるチェックである。

具体的には、成績評価による不可の判定、カリキュラムバーによる留年強制、単位修得数を基準とする卒業認定がそれであり、さらにこのコンベアシステムへの挑戦（意識的にしろ無意識的にしろ）に対する処分権の発動がそれである。

× ×

教育管理の形態はすこぶるあいまいであることを付言しておこう。

成績評価の実体だが、それはたとえば経済原論 担当しているF教官が彼の基準で、経済原論の理解度（？）を測るのだ。F経済原論の理解度、経済原論の理解度にすりかえられていくことに注意しよう。

× ×

さて、この管理支配の根拠、原型が法律に求められることに注目したい。

すなわち学校教育法であり、文部省令（大学（院）設置基準）である。とりわけ後者は大学たるための必要条件が羅列してある。開設科目、単位数、試験、卒業規程、教官数等々。われわれが最終的に問題にしなければならないのは果してこれである。

る。

× ×

教授会が全ての管理的諸権限を占有している根拠はまさに学生抑圧の秩序維持のためである。

「大学秩序にあって問題とさるべきなのは、まずもってこのような学向・教育といわれてきた日常的営為の中に、管理者的側面が事実として貫徹してきたことであり、彼らの管理者的発想は、その発想の物的根拠をこのような形で有していたことである（「解放大学・土論」）

4

われわれにとって、斗いのバネは何か。

どのようなつまり、われわれ学生は封鎖解除を云々する前に、実はいったい自分は何のために大学に入学したのか、入試を受けたのか、ということとを真摯に自問自答しなければならぬ。

大学は就職のパスポート職業訓練所であってはならないし、また誰一人としてそのように利用してはならないと思う。

封鎖が最初に問題にしたのは、まさに商大が、そして商大の外ならず日本の大学の殆んど全てが職業訓練所と化している事実と、それが日本マルジョワ権力体制の基本的な秩序に原因することの分析をとおしてであった。

× ×

われわれ封鎖派は、まず自らが労働力商品として生産されることを拒否し、その生産過程で給付される利益を甘受し（たとえばのびのびと勉強できること！）大学卒であるという理由で高い（中卒より）初任給にありつくことができ（る）、それを推進すること（へ与えられてガムシやうに勉強すること、いい点をとること）を拒否し、さらにはこの生産体制そのものを全的に拒絶する。

国家権力から移譲された教官・教授会の管理諸権限を拒否する。

それは占拠空間を形成する以外にない！

× ×

以上を踏えて、以下の根源的な問題を提起したい。

それは、帝国主義大学の解体という課題である。

① 入試制度を粉碎すること

教授会の入学選考権を粉碎すること、受験勉強体制を粉碎すること、

競争力判断を粉砕すること……
どこの大学にでも自由に入學で
さるようにする。

② 試験制度を粉砕すること
成績評価を伴った単位認定に結
びつく様な試験の制度を。とし
て教官に占有されていくその取
限を。

③ 従って試験制度に限らず、論
文、レポート等、単位に結びつ
く審査権を粉砕すること

④ 卒業制度を粉砕すること

現在の産学協同は企業の新田買
いに端的にみられるように、ど
の分野の知識を、どの程度もつ
た人材が、いつ、どれだけ排出
されるか、をメルクモールとし
ている。これを破壊することは、
資本主義体制に対するすぐれた
生産的斗争、ゲバルトとなる
だろう。

政治力学的には後期試験を実力
で粉砕することによって来年三
月の卒業を阻止することができ
る。

⑤ 大学の権力中枢として位置す
る教授会を解体すること

注、教官のへ研究者としての
自治を犯すつもりはも頭な
い。

② 学内の生産諸手段に關する
最終決定権を粉砕すること

⑥ 予算処理権を粉砕すること

⑦ 人事権——われわれに關係
するところの。教官選抜権、
学生部長らの選考権、を粉砕
すること

⑧ 学生の厚生補導（サービズ）と
してではなく、秩序維持機能
を果すところの制度を粉砕す
ること

具体的には補導委員会の解体
⑦ 現在のカリキュラム制度を粉
砕すること

② 専攻必修課目の撤廃——学
科目制粉砕。開設科目の拡充

⑥ 教官選抜の自由を保障

② カリキュラムバー撤廃

④ 科目年次配当基準撤廃

② マスプロ訂義の撤廃

いずれも学生が自由に研究活動
をする上での必要条件。
カリキュラム編成占有権を粉砕
すること。

次に、すぐれて現在の問題と
提起したい。

① バリケードの中の研究活動（

教官、学生に限らず）を全的に保
障すること

② 「教室使用」についての再検討
形態的記述を改め、目的論的に書
き改めること。また、旧校舎、60
番棟の解放についての検討を急ぐ。

③ 訂義をいかに研究と等置できる
までに変革できるかをテーマとし
て、バリケードに入った教官、学
生と共に討論する社会を設定する
こと

④ 管理棟でのサービズ業務の再開
のための条件は何なのかをテーマ
とした教職組との討論の社会を設
定すること

⑤ 学外訂義を粉砕すること

そのナンセンス性をわれわれは大
衆団交の過程で明らかにした。
封鎖からエスケープして学外に從
来の権力関係を蘇生させているこ
と、日常化の策動を推し進めてい
ることを見のがすわけにいかない。

⑥ 語学の訂義再開について教官と
の討論の社会を設定すること

⑦ 教授会の傍聴権を獲得すること

⑧ 民青の斗争破壊工作を圧倒的に
粉砕すること

⑨ 学生会館の自主管理を徹底させ
ること

⑩ 70年という政治情勢から無縁で
あるようなふりをやめること

ど、ぼくは政治が嫌いだから、
このことはわかりたくない

X X

斗いの質は何か？ 端的にいうて
それは日々再編強化されつつある日
本帝国主義権力によるところの全社
会的国内再編、なかならず教育再編
に抗する意志を、土着した制度、権
力を小情勢ごとくラディカルにくつ
がえしていくことによつて表現する
ことである。それは、おそらくは70
年代階級斗争の本質である。

最後に

ぼくは今まで述べてきたことから
わかるように、来年三月の卒業を拒
否します。今までのシステム内での
ですが。また、従来の権力関係を修
復したような学年末試験を拒否しま
す。

卒業は放棄しません。ぼく自身の
研究に必要な訂義に参加します。こ
んな訂義をせよ！ と教官に要求し
ます。もちろん単位認定されること
を拒否するし同時に単位認定そのも
のを拒否します。

のを拒否します。

中退ということになるかもしれま
せん。でもそれは自分で卒業と認定
したときにしたい。卒業論文は提出
するしないにかかわらず書きあげた
い。テーマは国家論です。

X X

叛逆することが生きることだと思
います。愛することだと思ふ。幸せ
になりたいです、ほんと。

10/4
1969

DAL 自由のための直接行動
小樽商大斗争・レジュメより

学園斗争を続ける ことの意味

小樽商大は、つい最近封鎖に入っ
たばかりだ。だから、DALの発言
も、読者には、何處もくりかえされ
てきた論理のせきなおしと見えるか
もしれない。だが、DALは今、こ
の斗争を始めた。一部の大学では、
さはや語られなくなった学園斗争を。
4頁中段の⑩は、政治主義に対す
る発言として消極的に思われる。11
月に、学園斗争を前進させることこ
どが、DALにとっての11月決戦に
なるのだ。

大学解体のためには、その管理支
配料をよ上から操作している中央権
力との対決なしには勝利しえない、
という議論がある。しかし、それが
学園の外で戦わねばならないという
評論とすりかえられではならぬ。
学園斗争は、形態的にバリケード
にたてこもるといふことなく、運
動として学園にとどまることによつ
て、中央権力と十分に対決すること
ができるし、その方が権力にとつて
も脅威なのだ。

この運動にとつては、続けるか続
けないかが問題のすべてであり、続
けるということは、運動の中で先取
りされた大学解体論、解放大学論を
具体化してゆくことに他ならない。
この斗争は、たとえば商大ひとつ
これせば、それで全四学園斗争勝
利だ。解放大学がこの日本のど
こかに生まれれば、それでこの運動
は一つの成功をみる。だが、われわ
れは、まだ東大ひとつこれせないで
いるのだ。

この意味でも、DALの斗争を、
もう一つの有効な11月斗争として、
確認しよう。

(滝 理)

九月十八日早朝、芝浦工業大学校内で起った殺人事件に、私は三矢の疑問を持ちます。

性。
中一桌に加害者のやり方の残忍

中ニ莫ル犯行が無言のうちに
なされてゐること。

第三、其の政治的意味の重大性。

第一にいつては、加害者は「死ぬかも知れない」と知りつつやうたと鬼われます。これは、差別感情を持ったファシストが、人間の団体に対する子供じみた無知の氣遣いかのどちらかだと鬼われます。第二の、終始無言であつたといふことは異常です。私達の内部斗争が、たまたま双方の肉体的消耗まで伴う事になる場合でも、それは討論の延長であり、相手の自己変革をかちとるニヒか根本となるはずでず。

第三の政治的重要性とは、この事件後、早速閣議でもこれを取り上げたことから明らか様、内ゲバ殺人が学生活動家と、学生大衆との離隔に大變有効であるといふことです。その上、現場には、たゞ芝浦工大の本校舎は羽田空港に近しい、また太学側に對し学生が有利な力關係にあつた大学です。私はこれらのことから考えて、この事件を学生争ごわしとみた権力側の謀略だと思ひます。これはちやうど20年前の朝鮮戦争前夜に起こされた「松川事件」などと同じような……。恐らく犯人などつかまらないうしやう。

それは権力者そのものであるのだから……。

展閱

基地斗争も新たな質をおびつつある。基地設置反対、拡張反対という防衛的斗争ではなくて、すでに依存している基地の機能マヒをめがけ攻撃的斗争が登場しつつある。

オ一の例は、北富士演習場に対

する。乃草母の会の斗争である。この
会は、自紅隊の演習場不法使用反対
全面返還を主張して、着弾地付近の
坐り込み小屋に、七月一日より毎日
三人ずつの坐り込みを行なっている。
亦二の例は、立川飛行場に対する
砂川と戦塹壕の斗争である。滑走路
の北端に連なる民有地に高い旗竿を
立て、飛行機の発着を妨害し、その
旗を守るために塹壕をつくり、青年
たちが泊り込んでいる。

才三の例は、辱不飛行場に対する
 辱不基地爆音防止期成同盟の斗争で
 ある。この同盟は、飛行活動の時間
 制限の拡大を主張して、滑走路の端
 に高い旗竿を立て、二百本のタイヤ
 を燃やし、黒煙で飛行機の発着する
 妨害をする異力斗争をおこなった。
 このような攻撃的基地斗争の一翼を
 担うものとして、わが大泉市民の
 集いの朝霞空戦放送局開設がある。
 兵士の修理という野戦病院の機能を
 反戦工作によって妨害することこそ
 の目的である。今後はとくに黒人兵
 士を対象として行なう。(大泉市民
 の集い「ニュースより 和田春樹」)

目金嬉老の手紙目

弁護団及び対策委員会の皆さん
今日は御苦勞様でした。

法廷から、与えられた我が家に帰つて来ても、どうして、裁判官に向つて、もっともっと痛烈な事をぶつけてやらなかったのか」と、深く悔みました。

私に裁判所が、公正で且つ事實に
目をつぶらない態度を取らない限り、
出廷は致しませんし、次回の公判日
の出廷拒否につりては、必ず、奥力
行使を決定します。

ふす。 闘いは、まだまだ始まったばかり

どうか皆さんも一皮、函国民の心
からの和をつくるために頑張って下
さい。それではお体を大切にしてく下
さい。

金嬉老

金嬉老

「アホロロ号がゐった。ふと私は人類が初めて月に到着すると為

利己みの行為

いうあの偉大な歴史的瞬間を、世界中の六億の人が同時にみつめていたという。私もその一人であつた。

和二。年八月六日八時十五分の二と
である。あの世界で初めて人類の頭
上に原子爆弾を爆発させた時も、も
っとも秀れた頭脳をもった人々と、
勇気ある人々が、アポロ11号と同じ
ように、秒読みに従って行われたこ
とを、私は考えずにはいられない。
(広島通信17号より H.I.)

宗教者
平和會議にむけて

11月354日、神戸でオラ図
 本宗教者平和会談が開かれるが、会
 談を単なるせしモニーに終わせては
 ならない。

二 宗教者の平和運動という場合、
 宗教者の方にセクセントが置かれて
 いると思われぬ。とすれば他の民主
 団体と異つた運動のみり方というこ
 とになる。これは宗教者独自の聞い
 かたがあるなどといつてゐるのでは
 ない。宗教者のあり方が問題となる
 のである。

⑤ 宗平座（宗教者平和協議会）の
 「広範な宗教者を結集するために当
 面一致できる緊急課題のみを国争課
 題とするが、万博のように一致点を
 みるまでに至っていないものは討議
 はするが一つの柱にはしない」とす
 る基本的姿勢及至体質は、従よりも
 量を、宗教者の良心よりも組織の維
 持を重視するものであることを物語
 っているのだらうか。

△ 宗教者の平和運動が、自己の奥
存人の向ひかけとしてかえつてくる
ものであるならば、先鋭部が後進
部を崩壊せしめると憂慮することは
あるまい。先鋭部のみ切り捨て運
動を統制のもとにおき、平均化するよ
り、先鋭部を含む多様性の中でこそ
特定の路線にしめつけられないうき
いきした運動となり、主体性を持つ
た、より広範な宗教者を結集できろ
うと思ふが、どうであらうか。

ぬ 造反派の牧師、青年の最近の動
 きが、永々平和運動の専門家と自負
 していた人々をのりこえてしまった
 事實は、「おくれた人々」がいつま
 ども馬鹿にされ、統制に屈服させら
 れてはいないことを示している。

「デネコ」
No. 5より

われらは人間の復讐を主張し
人間の自由を犯すものの
一切を

否定 (denego) する



(1) はじめに

Ω同じテーマで先号にも書いたが、階級斗争が市民運動かという二者択一のアホらしさを強調したいばかりに、かんじんの永くベ平連の方を忘れてしまっていた。そこで改めて少しシャチホコばって書いてみます。

(2) 僕の考えるベ平連の現在までの歴史

一 外的ベトナム戦争から
内的ベトナム状況まで
Ωとにかく僕にとっては、ベ平連はすでにベ平連でしかない。

そのものから、その悲しさ・不合理さの根源を、戦争主体であるアメリカという国家に、そしてそれに協力している「日本」それは、実は戦争反対のぼくらが住んでいる日本ではなくて、ぼくらの住んでいない二ホンがあると思われること。この点について被害者側加害者のメロニズムというテーマで次号以降で触れたいと思います。一 という国家に見つけ出した。Ωそのとき、ぼくらが国家を検証しはじめたということは、どんな戦争でも反対というヒューマニズムだけからではなかった。なぜならその地点では加害者としてのぼくらの機能を認めえなかったに違いない。おそらくその国家の検証ということとは、自分の日常的なはいそぐを戦争の主体としての国家へぶちまけてゆく過程ではなかったろうか。

Ωその過程でぼくらのまえに姿を現わしたのは、オース、ベトナム人を殺すために機能している基地の問題。それは基地公害と呼ばれるように、公害の問題と重なって意識されたところに、ベトナム戦争と日常的なはいそぐとの結合という新しい質がある。そしてその延長上に当然のこととして、オキナワ・アンボが登場してきた。Ωオースに、朝鮮人差別の問題・部落解放の問題。それは分裂支配の問題としてある。なにげないうちに彼らを差別していることで、自分自身が支配されているのだ。新しいスラムの誕生は、すべての労働者のスラム化であること。差別と収奪を可逆的に見るとき、ぼく

らは、国家とその支配をはつきりと見えていいると言えらるのではない。Ωオースに、高度な労働能力と低い政治意識をもった労働者の生産工場としての大学・高校教育の問題。ここでも自らを加害者・被害者として認識すること、一方にラディカルな各セクト集団、他方に自らを被害者としてしか認識しえない日共民青のいづれでもない運動を形づくってきた。

(3) ベ平連の組織論的意義

一 人間と政治との関係の未来
像としての永くベ平連

Ωおそらくぼくらがいくら政治嫌いであつても、政治の方がぼくらを放つておいてはくれない。だから政治的アパシーが、ひろく狂つても成立するような政治、好きなものだけへ現在のにはもうかるものだけへ成り立するような政治は、どこかおかしいと言えらる。ましてそういう性質を拡大しなければ成立しない政治は、はつきりとして断絶しなければならぬ。Ω革命または変革というとき、その革命組織もまた、革命の質から逆現定される。革命後も、社会構造・経済構造上の変化に即応した変化はあつても、革命組織は革命社会の組織的基本となる。

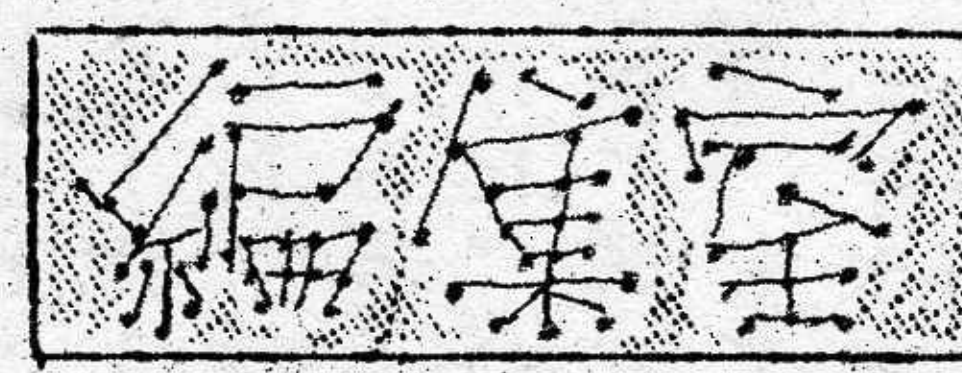
Ω自然発生ということに真の評価を与える組織は、どう革命社会を考えているのか。ある意味で、自己にとっての必然性がなければ、他人にとつては必然性があるかもしれないものを、自然発生と呼んでいるのではない。

現存する国家を、①その支配を否定する点②その否定のしかた③その具体的な行動という順に、それぞれ必然性は多様になるのではない。Ωベ平連のアパシー的土壌がそのアパシー性を失わず、自己をより鮮明に意識してゆく過程は、先に挙げた三つの問題の内的連関性を実証してゆくことだろう。それは、戦争・基地・差別・収奪・政治的アパシーという軸であり、空間的には沖縄が時間的には70年がそれをもっとも集中的に表現している。

アパシーベ平連を提唱したい。それらのベ平連は、それぞれベ平連という部分をとりてもよい質をもつべきだ。と同時に、個別ベ平連にとってベ平連という共通項で自由連合する。それが永くベ平連。

Ω自由連合とは、統一と野合が他人の自己、あるいはへわれとなんじんの緊密関係の自己認識を支点として釣り合っている組織論である。また、それは、思想の個人的・内的な志向と、社会的現象的な志向との交わった点で連帯することである。社会総体のなかで、不断にある意味を持たざるを得ない自己を認めつつ。

(次号へつづく)



Ω7号の記事には意外の反響があつた。だが友よ、自連の、あるいはぼくの、斗争を向うことなけれどそれは反よ、あなたたち自身がどう闘うかという問題なのだ。ぼくが、そしてあなた、どう闘うかを問いつめたところから発せられる声が、自連を形成するのだ。

オサム

Ωぼくはアナキストが嫌いである。自分自身を含めてアナキスト嫌いである。ぼくがアナキストと呼ばれたとしても、それは一般的に考えられるアナキズムの主義者としてのアナキストでありたくない。ぼくという人間とイヌムとはどんなことがあつても接点をもたない。ぼくはやっぱりぼくでしかない。アナキストあるいはアナキズムというものは聞くたびに、それらの強制する感にうになつた。アナキズム運動のために、とかいうものに対する珍妙な義ム感や自由感から自由でありたい。あらゆる思想が自分から離れて一人歩きしたとき、いかにそれに正義を認めていたところで、その時点でそれは強制にかわるのだ。とくに最近そのことを感じる。

Ω自連8号は4人のスタッフに加えて、多くの自発的ボランティアの協力のもとで作られた。ワイワイガヤカヤ、作った自連も、また楽しいものである。

弘

Ω自連発行の意味、おぼつかないかんじ。八方やぶれ、試行錯誤でいくしかない。永くベ平連小論の連載、いつまで続くか。ベ平連的な運動を続けていくなかで、どれだけ内的ベトナム状況を掘り起こせるか。当面は高校生の問題をやるつもり。(ひ)

連載 武者修業の記4 尾関 弘

以外にもアナキスト将軍マンモッキーの家は団地の三階にあった。あとで聞くと、そこは病院の薬局に務めている長男の家で、その団地の一階は長女の家、四階は次女の家ということだ。ビルディングの一つを親子兄弟・親戚一同で占めているようなものであった。あいにく目的の人ウンベルト・マンモッキーは、一ヶ月前カララで開かれたアナキスト・インターのあとひたひた、報告書作り、今後の企画などの仕事で先週からカララへ行っていた。ここには居ないことが判った。

迎え入れられたマンモッキーの自宅は、なによりも本がいっぱいあるのに驚かされた。書庫だけでなく、寝室・廊下・応接室など、壁という壁はびっしり本で埋められていた。それに入口近くに写真の暗室のような小さな部屋がありそこには、スペイン革命の貴重な資料、反ムッソリーニの人民戦争時代のものなど、おそらく世界中を捜してもここにしかないようなシロモノが、これまた棚にぎっしりとつまっていた。

イタリアでは三度の食事のうちでも昼食時間が一番長く、またごちそうを食べるので休んでいる人も皆な自宅に帰って家族と一緒に食事をとる習慣がある。マンモッキー家でも珍重がいろいろというので臨時召集がけられたのか、幼稚園や学校に行っている子供まで帰ってきて、その日の昼食のテーブルを囲んだのは二〇人をこえた大家族であった。子供から孫にいたるまで全員がアナキストであることが誇らしげに自己紹介した。

ほくは食事を終ってから、若いサボーナのアナキスト活動家と会うことにして、その後でマンモッキーを追ってカララに行くことにした。サボーナには靴工場が何ヶ所ある。ニ・パウロをリーターとするマルクス・バクーニニと、カリリスタンで何ヶ所バルトが中心のアナルゴ・サンジカリストのグループの二つがある。二人とも25才ぐらいの青年で、非常に活動的なアナキストである。ジャンニ

彼らの活動は、少しデロリスティックなほどの激しい攻撃主義であった。全身黒装束に黒マフラー、車体ナンバーをはいた単車で警官の隊列に突っ込んだり、発煙筒を投げ込んだりしている。つまり、英雄的なカッコヨカが売り物で現代の青年に大モテだと自慢そうに語っていた。一ヶ所、バルトの方は、容貌も性格も一見してジャンニとは正反対と判る思いつめた表情をいつもしていた。彼は、自分と同じように小さな商店や工場で働く青年労働者や漁師を集めて、新しいアナナルゴ・サンジカリズムに基づいた共同組合を組織していた。ほくと彼とはカララの大台へアナキスト・インターの大会の仲良しであるが、ほくはいつも彼の話す問題の真実の正確さと深さに驚かされてばかりであった。古く新しいアナキズムの諸々の向赴が現実の運動体験に即して、リアルに語られるのだった。

この全く違ったアナキズムを志向しているジャンニとバルトが、マンモッキー将軍の両腕として、F.A.I.ヘイタリ・アナ連の実際の活動の強力な担い手であった。ほくが二人に送られてサボーナを離れたのはもう夕方近くだった。そしてカララの事務所に着いたのが夜の二時頃。もう誰も居ないのではと予想していたのに反して事務所には明々と電気が灯っていた。登りながら階段を登って事務所の扉を開けると、マンモッキーにカララの古い活動家のフアイラとマツケリ、それに事務所の専任職員自称アナキスト官僚のモローニがぼくの突然の来訪にこぞって驚きの声をあげた。

彼らは一ヶ月前に終わったアナキスト・インターの報告書作りをしていったのだ。一つ一つの原稿を充分討論して完成し、それを将軍自らタイプで打ち、印刷・製本は主にモローニの仕事であった。どの運動にも不可欠なこの原始的かつ基本的な作業は、今やめがややっていける仕事と全くそのままだ作業である。7頁近い報告書を五千部も作るというのである。12時になると三人のオーダーは帰っていった。そこで当然残された仕事は、事務所に住むモローニと、しばらく事務所を居候するこ

とになった。ぼくの二人の仕事になってしまった。いくら武者修業中のアナキスト、一宿一飯の仁義とはいっても、明朝も晴までぶっ通しの印刷は少々身体にこたえた。しかし、モローニはほくがイスの上で伸びている間も実にコマメに休むことなく動き続けていた。

8時頃になると、イスにすわりついて半分眠っているぼくの耳もとで突然マイクを使ってみて起きろと叫んだ。ぼくがびくびくりして頭を上げると、今からコーヒーを飲みに行こうというのだ。コーヒーを飲むのになんか不思議に思いついて、云々云々云々まにアンソをひいてついて行くと彼はカララ高校の前に出た。大きなアナキストの立て看板の前で演説を始めた。激しいアジ調子の獲得の抑揚をもつイタリア語なので、何を話しているかぼくにはチンプンカンプンであるが、奥にウマイ。それだけは判る。あのおとなしいモローニがよくこんな堂々と、ペラペラやれるものだと思つてにたれながら、ぼくは演説に聴きはれていた。ぼくは横でアンソを構ってじっと立っていただけだった。このコブ付きのために今朝の集会は大成功だそう。半時間ぐらいいで、登校してくる高校生や通行人で空地は埋まってしまった。モローニはしゃべり終ると「これをやらないと朝のコーヒーがまずくてね」と満足げに話した。ぼくが「毎日やるの」と聞いてみると、「ああ」とだけ云つてのけた。バクーニンのような巨匠を顔中に生やしたこのモローニという小男、とてつもない男である。カララのアナキストの事務所に着候した一週間に、ぼくは彼の活動に度々抜かばなれだったし、余りにも多くのことを学んだ。

この日を初日に、ほくにとつては二度目のカララでの生活が始まった。カララは世界唯一の白い大理石の産地である。まっ白い山脈を見せる山のふもとに、50年東大理石の産地に働くアナナルゴサンジカリストが住んでいる山村がある。あのインターナショナルの歌は古くからの民謡であったのだ。そんな地で、バクーニン・マラテスタ以来の悲願を背負ってアナキストインターナショナルが開かれた。次から、約一ヶ月前のその模様を書いてみよう。(つづく)